

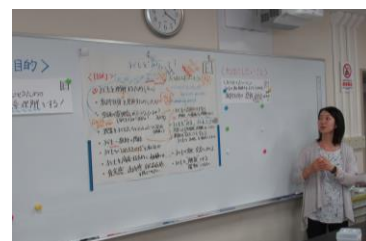
# 令和元年度 第2回 若い教師と共に学び合う自主セミナー実施報告

【実施日時・場所】 令和元年9月14日（土）福島大学

【テーマ】 子どもを「みる」って、どういうこと？

## 【研修の流れ】

- ① ブレインストーミング  
↓ ・ 「子どもを『みる』」ことに対する自分の考えをワークシートに書きました。
- ② グループワーク「子どもを『みる』って、こういうこと！」  
↓ ・ ラウンドスタディという手法で、多くの参加者の考えを聴きあいました。
  - ・ 各グループで話し合ったことをキーワードにまとめました。
- ③ 発表  
↓ ・ 各グループで出されたキーワードを発表しました。
- ④ 全体協議  
↓ ・ 各グループのキーワードを受けて、質問や意見を出し合い、参加者全員で「子どもを『みる』こと」に対する自分の考えを深めていきました。
- ⑤ ふりかえり
  - ・ 研修を終え、「子どもを『みる』こと」について自分の考えをまとめました。



子どもをみることは大切だと思っけていても、いざ「子どもをみるとき何を大切にしていますか？」「何のために子どもをみていますか？」と問われると、なかなかすぐには思い浮かばない自分にはとさせられました。自分はこれまで何を考え、子どもをみてきたらうかと、グループのメンバーと語り合う中で、共通するものや方向性が見えてくる感覚が興味深かったです。教師として子どもをみているようで、子どもも教師をみている、ということが私には新鮮でした。自分たちをみてくれていると子どもたちは感じるなかで、安心感がうまれたり、教師と子どもの信頼関係が築かれていったりするのだなと考えることができました。

また、他のグループの意見を聞き、「心をこめてみる」という言葉が心に残りました。その子のことを分かりたい、気持ちを感じたい、なぜそう考えたのか理由を知りたいといった、教師の子どもを理解したいという心が大前提に大事だと感じました。

『子どもを「みる』』という、とても大きなテーマだからこそ、きっかけがない限り、立ち止まることはなかったかもしれません。今回のセミナーは、大切なことに気づかせてくれるきっかけの場となりました。

（文責：事務局 桑原）